

石の枕

司会 ①村上洋兄 ②石塚兄 ③森下兄
奏楽
祈禱 ①石橋兄 ②右沢兄

賛美 聖歌442番「つみのふかみに」 (栄光から栄光へと)
使徒信条

聖書 ① ハバク書2章1～4節
②③ マタイによる福音書25章31～40節

音楽 ① 北島美佐子姉
②③ アサリオン

証詞 ① 吉原千晶姉

メッセージ ① 「ゆっくりと、少しずつ、しかも確実に」
坪井永城副牧師
②③ 「すべての天使たちを従えて来るとき」
大川従道牧師

賛美 「主の愛のながうちに」 (聖歌578・献金)
主の祈り
祝禱

「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」
(マルコ一の十五)

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリピ2の13)
大和カルバリーチャペルの歴史的スタートを1953年とする。

開拓伝道を始めた責任者は、OMS(東洋宣教会)の宣教師チャールス・デュプリー先生である。現在、日本の宣教からは引退されているが、米国にて御存命である。お名前の如く、体型はデブリーである。私大川牧師は、十代の神学生時代に、共にスモウをしたこともある。まことに温和で心の広い宣教師であった。奥様もいつもニコニコ笑顔で、日本語が通じなくても、十分にコミュニケーションがとれて、おつりがくるぐらいであった。その頃の幼い息子様が、父親の意志を継いで、日本の宣教師として活躍中とこのことを聴く。

三ヶ月間にわたるトラクト配布、路傍伝道、そして子供の集会や大人の天幕伝道会も実らず、一年後には閉鎖されることになった。

60年前の座間市は(当時、高座郡座間町)、人口も少なく、米軍基地(キャンプザマ)があるにもかかわらず、福音宣教は困難であった。

一度閉鎖を決定した座間伝道も、二人の兵士の強い申し出により、デュプリー先生も、東洋宣教会の代表ロイ・アダムス博士(現在、ロスアンジェルス郊外のアズサ大学の学生寮にアダムス寮というのがあるのは、この方の名前を記念してのことである。私はそこに泊ったことがある。)と相談し、続けることになった。

二人の青年兵士は次のように言われたそうである。「座間の地域のみなさんのために、ぜひ伝道を続けて下さい。いくら費用がかかってもサポートしますから」。いくら1ドル360円時代でも、スゴイ発言である。

この中のお一人が、兵役を終えて、後日大学教授となり、国際基督教大学(ICU)の客員教授となって、座間教会の天台チャペルを訪問して下さった。あの時に止めなくてよかった、と講壇で泣いておられたことが忘れられない。

やがて座間教会は、大和に移転するのだが、彼らの熱い救霊のスピリットは伝え続けていかねばならない。(この文を書いている私も、胸を熱くして涙がとまらない。)ハレルヤ！主よ、感謝します！！

【大和ニュース】

- ・ 今年が開拓伝道60周年記念の年。「石の枕」で歴史を綴ってみたい。
- ・ 本日、入門講座Ⅱ、アンサンブル、SS 教師会、GM、YY タイム(森・12:30)。
- ・ 礼拝後 J.Plus あり。中高生会(ヤンチャ)、学生会、青年会のことです。
- ・ 今週も祈禱会を大切に！ 聖餐式。大川牧師の帰朝メッセージ。水曜夜と木曜朝。
- ・ 準備祈禱会は、金曜夜9時～10時半。説教は久保田補教師。
- ・ 週末礼拝・Weekend ワーシップは、土曜夕方6時～。説教は坪井副牧師。
- * 土曜スクールは子どもの伝道会です。土曜朝9時半から。森チャペルにて。
- * ご婚約おめでとうございます。西谷朋晃様と百瀬響子様。本日第3礼拝後。

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！
Aコース:マタイ26章～マルコ1章 Bコース:レビ記10章～23章